

令和3年度

南伊豆町教育委員会

自己点検・評価報告書

令和4年8月

南伊豆町教育委員会

目 次

○ 趣旨、評価対象等	1 ～ 3
I 昨年度評価結果への対応	4 ～ 5
II 令和3年度 教育委員会の自己点検・評価シート	6 ～ 8
① 教育委員会の活動	6
② 教育委員会が管理・執行する事務	6
③ 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	7 ～ 8
III 点検・評価への学識経験者の知見	9 ～ 10

1 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、教育委員会の活動等について点検・評価を行うことが義務づけられた。南伊豆町教育委員会は、例年、前年度分について報告書を作成、町議会へ報告しホームページによる公表を行っているところである。本年度は第 14 回目として、令和 3 年度分について同様の手順で行うものである。その目的は、有識者の知見や町民の意見をいただき本町教育委員会の課題や取り組みの方向性を明らかにするとともに、今後の信頼される教育行政の推進に活かそうとするものである。

2 点検及び評価の対象

点検及び評価は、前年度における教育委員会の主な施策・事業を対象として実施するもので、今回は令和 3 年度を対象とする。

(1) 教育委員会の活動

本町教育委員会は、毎月 20 日を基準日として月 1 回の定例会を開催している。本年度も、必要に応じて行う臨時会のほか、会議の運営、情報発信、事務局との連携、首長との連携などを点検・評価の対象とし、活動を検証した。

(2) 教育委員会が管理・執行する事務

主として「南伊豆町教育委員会の教育長に対する事務委任規則」（昭和 30 年 10 月 12 日）第 1 条に規定する教育長委任事務を除いた以下の項目を点検・評価の対象とした。

1. 教育行政に関する一般方針を定めること
2. 教育委員会の事務局及び教育機関の職員の罷免及び懲戒を行うこと
3. 教育委員会に関する条例等の制定・改正等を行うこと
4. 教育委員会所管の学校その他の教育機関の設置又は改廃に関すること
5. 県費負担教職員の罷免等に関すること（地教行法 38 条）
6. 県費負担教職員のサービスの監督の一般方針を定めること（地教行法 43 条）
7. 重要な教育財産の取得を申し出たり、教育機関の敷地を選定すること（地教行法 28 条）
8. 重要な工事に関すること
9. 教育に関する事務の管理・執行状況の点検と評価（地教行法 26 条）
10. 教育委員会附属機関の委員の任命又は解任
11. 請願・陳情・訴訟についての処理の決定
12. 教科書採択に関すること

(3) 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

南伊豆町教育大綱の目標である「ふるさとを愛し、心豊かな人を育む」を念頭に、

- ① 子供の「生きる力」を育む、魅力ある充実した教育を推進します。
- ② 生涯学習社会の実現を目指し、町民が活用しやすい学びの場や環境を整備します。
- ③ 現代の重要課題に対応し、信頼に応える教育を推進します。

を方針として諸事業を点検・評価した。

3 点検・評価の方法

令和3年度の事業について、その進捗状況を総括するとともに、課題や今後の取り組みの方向性について内部評価を行う。同時に学識経験者の知見を活用するため有識者委員会を組織し、ご意見ご助言をいただくこととした。

4 点検・評価のまとめ 本文4～8ページ参照

5 有識者委員会の知見 本文9～10ページ参照

有識者委員は次の方々をお願いした。

(50音順 敬称略)

氏 名	所 属
宇 田 忠 靖	教育関係者（元小学校長）
小 澤 義 一	教育関係者（前教育長、元小学校長）
高 橋 政 弘	教育関係者（元小学校長）

6 総合評価

「教育委員会の点検・評価」は、平素、合議により管理・執行している教育行政の在り方を振りかえる数少ない機会と捉えている。

新型コロナウイルス感染症拡大防止により、昨年度に引き続き、イベントや行事の実施について検討し、縮小及び中止の決定をした。多くのことを学び、経験できる学校行事については、感染症対策をした上でできる限り実施した。

ウィズコロナ、アフターコロナでも、これまでの対応を活かしていきたい。

「大項目① 教育委員会の活動」では、住民の意思を反映し、地域の実情に応じた教育行政の推進を図ってきた。

また、幅広い分野に渡る業務を理解し、適切な判断を求められる点を考えると各種研修に積極的に参加し研鑽を深めることが大切であると実感している。地道な活動が多いため、委員会活動について町民への周知・情報発信を進めていきたい。

「大項目② 教育委員会が管理・執行する事務」では、現在スムーズに進んでいると思われる。今後も関係機関や現場の状況を十分把握し、判断するためにも事務局との協議、現場の声の収集を心掛けたい。

「大項目③ 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」では、定例会議で事務局から実施している事業の進捗状況や今後実施する事業などを説明することで、情報共有を図るとともに、点検・評価の場にもなっている。今後も情報共有の継続とともに、現場視察等も積極的に実施していきたい。

I C Tの活用により、私たちの生活も変化していくことが予想されるが、地域と協力し、町の次代を担う人材を育てる教育の推進と将来活躍できる「場」の提供を目指していきたい。そのためにも3月には「南伊豆町学校教育におけるI C T活用方針」を策定し、実用に供している。

また、国際理解教育の根幹をなすべく、各小中学校に常駐で配置したネイティブA L Tは、南伊豆中学校に配置予定のA L Tのみ、コロナの影響で来日が遅れているが、南伊豆町での生活にも慣れ、英語の授業中は言うにも及ばず、他の教科の授業や学校行事においても児童・生徒と楽しく触れ合う姿が多くみられている。言葉の壁を越えた交流ができているものと認識している。

今回の点検・評価の実施により、実態を把握するとともに、新たなニーズに応じた教育施策の展開を図り、有識者委員からいただいたご意見・ご提案を今後の事務事業に反映させ、教育行政の推進に努めていきたい。

令和4年8月

教育長 佐野 薫

I 昨年度評価結果への対応

1 教育委員会の活動

令和2年度分評価の指摘事項	令和3年度改善状況
① 町長の朝の登校指導、学校行事への参加により、教育現場への理解が深まり、連携が図れているようなので、今後も継続されたい。	① 町長の朝の登校指導も継続している。新型コロナの関係で学校行事の縮小・中止はあったが、できる限り、参加していただき、教育現場の理解も深まった。

2 教育委員会が管理・執行する事務

令和2年度分評価の指摘事項	令和3年度改善状況
① 少子化に伴い、学校統合した場合、校舎の跡地利用も検討していただきたい。特に高齢者の居場所づくりでもつかえるような形にいただきたい。	① 学校教育環境整備委員会から中学校統合について、速やかに統合されたいとの答申を受けた。令和4年度に統合準備委員会を設置し、中学校統合について具体的な検討を進めるとともに、跡地利用についてもプロジェクトチームを立ち上げ、検討する。

3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

令和2年度分評価の指摘事項	令和3年度改善状況
① 1人1台パソコン整備に伴い、教員のスキルアップとパソコンの有効活用を進めていただきたい。	① 研修会を実施し、基礎スキルの向上を図るとともに、町ICT推進委員を中心に各学校でのパソコン活用について情報共有した。
② スポーツ振興として、市町対抗駅伝競走大会のためだけでなく、年間を通して練習する体制を検討されたい。	② 新型コロナ感染症対策のため、事業を中止せざるを得なかった。通年の体制づくりについては、指導者等の人選など課題が多いが、引き続き検討していきたい。
③ スポーツ協会内での連携を図り、活発な活動をしていただきたい。	③ 新型コロナ感染症対策のため、フェスタ南伊豆が中止となり、スポーツ協会としての事業の実施ができなかった。スポーツ協会として今後の方向性を確認し、次年度以降、具体策を検討したい。
④ 文化協会会員の高齢化により会員数が減少している現状だが、会場使用料がかかると活動できないという声を聞いているので団体が活用しやすくなるよう、施設利用について配慮してもらいたい。	④ 新型コロナ感染症対策のため、文化協会の日頃の活動ができなかったこともあり、会員数が激減している。施設利用の配慮も含め、文化協会維持のため、検討していきたい。

4 教育委員会事務局全般について

令和2年度分評価の指摘事項	令和3年度改善状況
① 社会教育では新型コロナウイルス感染症対策のため、各種事業の縮小または中止をせざるを得なかったが、少子高齢化の現状を踏まえ、事業の見直しや新たな方向性を検討する機会と捉えてもよいのではないか。	① 新型コロナウイルス感染症対策で中止とした事業が多かったため、事業の見直しまでできなかったが、次年度以降に向けて事業内容の見直しを検討した。
② 南伊豆町の教育大綱では「ふるさとを愛し、心豊かな人を育む」を目標に掲げているが、今後、学校統合を見据え、効率的な教育環境の充実とともに、子供たちを支える町民が様々な学びのできる生涯学習機会の環境を整えることで、将来南伊豆に戻ってきたいと思えるふるさとを目指していただきたい。	② 学校統合を見据え、跡地利用の検討も進めていく予定である。生涯学習の機会の場として活用できることも考慮していく。

※「令和2年度分評価の指摘事項」は、「令和2年度自己点検・評価報告書」、「Ⅲ 点検・評価への学識経験者の知見」の指摘事項をまとめたものである。

Ⅱ－１ 令和３年度 南伊豆町教育委員会の自己点検・評価シート

大項目	中項目	小項目	点検評価
① 教育委員会の活動	(１) 教育委員会の会議の開催	①教育委員会会議の開催回数	定例会１２回を開催した。
		②教育委員会会議の運営上の工夫	会議に係長を出席させ、議案の内容説明、質疑対応など、効率的な会議運営を心掛けた。
	(２) 教育委員会の会議の公開、保護者や地域住民への情報発信	①教育委員会会議の傍聴者の状況	一般の傍聴者なし。
		②議事録の公開、広報、公聴活動の状況	会議録の公開請求はなし。 教育委員会会議録を町ホームページ上で公開している。 また、町広報誌（広報みなみいず８月号）に教育委員の学校訪問時の様子を掲載した。
	(３) 教育委員会と事務局との連携	教育委員会と事務局との連携	定例会への事務局長・係長の出席を実施した。
	(４) 教育委員会と首長との連携	教育委員会と首長との意見交換会の実施	総合教育会議は、前年同様、２回開催した。 中学校統合について、学校教育整備委員会から速やかに統合されたいとの答申を受けたことから、今後の中学校統合についてのスケジュール等、意見交換、情報共有を図った。
	(５) 教育委員の自己研鑽	研修会への参加状況	コロナ感染症対策で静岡県市町教育委員研修会は中止となったが、町独自の研修として ＡＬＴ、ＩＣＴを活用した授業参観（南伊豆東中学校）を実施した。
	(６) 学校及び教育施設に対する支援・条件整備	①学校訪問	６月２３日・２４日、町内小中学校を訪問し、校長から説明を受けた。
②所管施設の訪問		図書館、武道館（町史編さん室含）を訪問し、職員等から説明を受けた。また、加納テニスコート（令和２年度購入）と大瀬太陽光発電施設を視察した。	
② 教育委員会が管理・執行する事務	(１) 教育行政に関する一般方針を定めること		「令和３年度 南伊豆町の教育」を作成した。
	(２) 教育委員会の事務局及び教育機関の職員の罷免及び懲戒を行うこと		教育委員会事務局人事を町長及び総務課長に要望するとともに、学校用務員（町職員）人事異動（案）について２月の教育委員会で現状報告をした。また、小中学校教職員人事異動の内申案について３月の教育委員会で報告した。なお、平成29年度から賀茂地区指導主事３人を幹事町である当町の職員として登用している。
	(３) 教育委員会に関する条例等の制定・改正等を行うこと		規則制定３件、規則改正４件
	(４) 教育委員会所管の学校その他の教育機関の設置又は改廃に関すること		当該年度の該当はなかった。
	(５) 県費負担教職員の罷免等に関すること（地教行法38条）		教職員の懲戒はなかった。
	(６) 県費負担教職員のサービスの監督の一般方針を定めること（地教行法43条）		年度当初、各学校長から服務について教職員に指導、また、県教委でも学校訪問時に指導を実施している。
	(７) 重要な教育財産の取得を申し出たり、教育機関の敷地を選定すること（地教行法28条）		当該年度の該当はなかった。
	(８) 重要な工事に関すること		南伊豆東小学校バリアフリー化工事、体育館（南中小・南伊豆東中）雨漏り修繕工事、音楽室床修繕（南中小・南伊豆中）、加納テニスコート駐車場整備工事及び給排水設備設置工事、武道館雨漏り修繕工事等を実施した。
	(９) 教育に関する事務の管理・執行状況の点検と評価（地教行法26条）		点検評価に関する有識者委員会を２回開催。事務局からの原案説明を実施し審議及び委員からの知見をいただいた。報告書は議会に提出し、町ホームページに掲載した。
	(10) 教育委員会付属機関の委員の任命又は解任		任期満了となった付属機関の委員（社会教育委員）及び人事異動等により変更となった委員に委嘱書等を交付した。
	(11) 請願・陳情・訴訟についての処置の決定		当該年度の該当はなかった。
	(12) 教科書採択に関すること		当該年度の該当はなかった。

Ⅱ－２ 令和３年度 南伊豆町教育委員会の自己点検・評価シート

大項目	中項目	小項目	細項目	担当係	点検評価（上段：実績 下段：評価）
③ 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	ふるさとを愛し、心豊かな人を育む	１ 子どもの「生きる力」を育む、魅力ある充実した教育を推進します	(１) 家庭教育	社会教育係	●家庭教育支援員（２人）による、新入生の保護者を対象にしたミニ講座を実施した。 ●家庭での教育力低下が叫ばれる中、若い保護者に簡潔明瞭に家庭教育の大切さを伝えることができた。
			(２) 幼児教育	学校教育係	●こども園と小学校の連携強化（こ小連携の強化）を目的に開催している園保育教諭と学校教諭をメンバーとした連携会議も継続している。賀茂地区指導主事及び幼児教育アドバイザーも園や学校との信頼関係が構築され何でも相談できる良い環境にある。 ●こども園と小学校の連携が図れるようになり、就学に向けての早期の対策及び情報共有ができるようになった。
			(３) 学校教育全般	学校教育係	●１人１台パソコン用充電保管庫を購入し、授業や休み時間等でもパソコンが使える環境を整えた。ＧＩＧＡスクール推進に向け、教職員対象の研修会実施、ＩＣＴ推進委員会での情報共有により、教職員のスキルアップを図った。 ●新型コロナの影響でＡＬＴの来日が遅れていたが、令和３年度４人が来日し、それぞれ学校で教員の一人として積極的に授業等に取り組んでいる。 ●多人数学級での授業内容浸透への補助、多動児等一人の教員ではクラス全体への対応ができない場合には支援員を雇用し効率的な授業進行に努めた。 ●ＧＩＧＡスクール推進が本格的にスタートし、授業でのパソコン活用を始めたが、教員のスキルが必須のため、研修会を実施した。このことにより、町ＩＣＴ推進委員を中心に基礎スキルを身につけ、校内での研修等を積極的に進めている。 ●ＡＬＴ４人が来日し、それぞれの学校で英語以外の授業にも参加し、児童生徒、教員とのコミュニケーションを図っている。 ●臨時教諭、支援員の任用は教員の多忙化解消にもつながっているが、人材不足のため、確保がむずかしくなっている。
			(４) 小学校教育	学校教育係	●新型コロナ感染症対策をしながら、できる限り行事を実施した。 ●地方創生臨時交付金を活用し、新型コロナ感染症対策のため、第２保健室のエアコン設置（南中小）や衛生用品等を購入した。 ●新型コロナ感染症対策をした上で、運動会をはじめとした学校行事を実施できたことから、今後、ウィズコロナ、アフターコロナでも、できる限り行事を工夫して実施していきたい。 ●老朽化により修繕箇所が多いが、今後の施設維持について計画的に進めていく。
			(５) 中学校教育	学校教育係	●新型コロナ感染症対策をしながら、できる限り行事を実施した。 ●地方創生臨時交付金を活用し、トイレ修繕や大画面テレビ及び後付け電子黒板ユニットを購入した。 ●雨漏り等施設の修繕を実施した。 ●教員のパソコン技術のスキルアップにより、授業での活用が増えたことから、今後、家庭学習も含め、生徒の積極的なパソコン活用を進めるとともに、教員のより一層のスキルアップにつながる研修等を実施していきたい。 ●老朽化により修繕箇所が多いが、学校統合を見据え、施設維持を進めていく。
			(６) 学校給食	学校教育係	●地方創生臨時交付金を活用し、給食調理場（南中小、南伊豆東小）に空気清浄機能付きエアコンを設置した。その他、安全な給食提供のため修繕等を行った。 ●地産地消、高校との連携を目的に給食食材に南伊豆分校産の野菜を取り入れた。 ●今後は少子化による児童生徒数の減少、給食調理の効率化等を鑑み学校給食施設の一元化について調査研究を行う。 ●南伊豆分校産野菜の給食食材採用により小高連携、地域の魅力の再発見が図られた。
			(７) 高等学校教育との連携	学校教育係	●新型コロナ感染症対策のため、事業縮小となったが、地元の下田高校南伊豆分校との交流・連携を目的とした南伊豆認定こども園との農業体験交流等を行った。 ●南伊豆分校の更なる魅力化を目的とした魅力化推進協議会を２回、開催した。 ●こども園をはじめ、小中学校との交流も深まっている。地元で活躍できる人材の育成につなげていきたい。 ●魅力化推進協議会については方向性について課題がある。
			(８) 青少年健全育成	社会教育係	●夏季休暇、年末年始休暇時に関係機関と協力し、町内補導パトロールを実施した。「青少年問題協議会」を２回開催した。 ●特に問題も生じておらず、現状のまま継続したい。

Ⅱ－３ 令和３年度 南伊豆町教育委員会の自己点検・評価シート

大項目	中項目	小項目	細項目	担当係	点検評価 （上段：実績 下段：評価）
③ 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	ふるさとを愛し、心豊かな人を育む	2 生涯学習社会の実現を目指し、町民が活用しやすい学びの場や環境を整備します	(1) 学習機会の充実（小学生～高齢者）	社会教育係	●小学生対象のふるさと学級は新型コロナウイルス感染症対策のため、内容縮小及び回数を減らし、無回転卓球、海の体験活動、川の生き物調査を実施。小中学生対象のハローボランティア事業は例年通り実施した。 ●小中学生に対して、学校以外の機会を作り、南伊豆の魅力を伝えたり、経験することで、将来地元で活躍する人材となるよう育ていきたい。
			(2) 図書館の利用推進	社会教育係	●石垣りん未刊詩集を発刊した。 ●図書館でのイベント開催、配本所の活用 ●石垣りん未刊詩集は非売品とし、文学記念室へ寄附をしていただいた方、県内図書館、賀茂地区教育機関へ送付予定で、改めて石垣りんさんに触れてもらう機会としていきたい。 ●新型コロナウイルス感染症対策のため、利用制限をする期間もあったが、本に親しむきっかけづくりになるイベント開催は好評であるため、継続していきたい。
			(3) スポーツ・レクリエーションの振興	社会教育係	●新型コロナウイルス感染症対策のため、スポーツフェスタ中止。 ●静岡県市町対抗駅伝競走大会のみ参加した。 ●令和２年度購入した加納テニスコートの駐車場整備工事を実施。５月からテニスコートの無料貸し出し。 ●新型コロナウイルス感染症対策のため、２年連続でスポーツフェスタは中止としたが、これを機に、生涯スポーツの普及につながる来年度以降の実施事業についてスポーツ協会と検討していきたい。 ●青野川ふれあいマラソン大会も２年連続で中止としたが、来年度以降の実施について、町陸上協会と協議した結果、会員の減少・高齢化から実施しないこととした。 ●今後、スポーツの振興をどのように図っていくか、スポーツ協会と連携を図り、具体策を検討していきたい。 ●加納テニスコートは、幅広い年代で利用されているので、今後、コート整備等を実施し、町内外の多くの方に利用してもらえる施設にする。
			(4) 生涯学習環境の整備	社会教育係	●町内で教育委員会が所管する社会教育施設は、図書館、武道館、宮前テニスコート、郷土資料館別館であるが、武道館の雨漏り修繕を実施した。なお、武道館については平成30年度からシルバー人材センターへ施設の管理を委託している。 ●上記施設は経年劣化によりいずれも不具合が生じてきているため、今後は公共施設長寿命化計画に則り、適正な維持管理に努めていきたい。宮前テニスコートは令和３年度末で土地賃貸契約を終了とした。
			(5) 歴史・文化資源等の活用	社会教育係	●文化財保護法の改正に伴い、名勝伊豆西南海岸保存活用計画を松崎町・西伊豆町と策定した。 ●令和２年度からの２か年事業で名勝伊豆西南海岸保存活用計画を策定した。今後、保存とともに活用できるよう、商工観光課と連携を図り、進めていきたい。
			(6) 文化活動の推進	社会教育係	●新型コロナウイルス感染症対策のため、芸術祭、芸能部門発表会は中止とした。 ●南伊豆町史編さんについて町外の文化財有識者３名と南史会で執筆作業を進めた。町史資料のため、石廊崎白水城発掘調査を実施した。 ●町文化協会自主事業として、芸術祭、芸能部門発表会を開催しているが、会員の高齢化及びコロナ禍における練習機会減少により、文化協会脱退の団体があり、自主運営が年々難しくなっている。 文化活動の推進として、自主事業継続のため、教育委員会事務局もバックアップしていく。 ●町史第３集については、令和５年度発刊予定。

※ 大項目③の教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務における中項目、小項目については、「南伊豆町の教育」の目標及び方針による。

Ⅲ. 点検・評価への学識経験者の知見

前掲の学識経験者3名の方々にお集まりいただき、「南伊豆町教育委員会 自己点検・評価報告書」（案）に基づき説明し、委員各位から感想や意見をいただいた。以下はその指摘事項をまとめたものである。

【指摘事項】

（１）教育委員会の活動

①「教育委員会と首長との連携」

- ・朝の登校指導への町長の参加は、学校教職員や子どもたちにとって、町長が身近な存在となっていること、また、様々な情報交換もできることから、今後も継続されたい。

（２）教育委員会が管理・執行する事務

①「教育委員会所管の学校その他の教育機関の設置又は改廃に関すること」

- ・少子化により、学校統合せざるを得ない状況であるが、跡地利用について、具体的な検討をしていただきたい。

（３）教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

①「学校教育全般」

- ・ＩＣＴ活用については、今後も教員のスキルアップを図ってもらいたい。併せて、ＩＣＴ活用がどのように進んでいるか、町民にも発信できるとよいのではないかな。
- ・教員は賀茂地区内での異動があるため、無理なく活用できるよう、賀茂地区での連携を図ってもらいたい。

②「スポーツ・レクリエーションの振興」

- ・諸事情により、マラソン大会を今後実施しないようであるが、陸上教室など年間を通じてできないかな。

(4) 教育委員会事務局全般

令和3年度も前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響を受けた1年であったと思われる。

学校教育関係では、地方創生臨時交付金の活用により、令和2年度に引き続き、環境整備が進み、3密を避けた学校生活が送れていることはありがたい。

また、創意工夫の上、学校行事等実施の様子がうかがえる。学校行事が児童生徒にもたらす経験は人間形成に大きく影響を及ぼすため、できる限り、今後も実施できるよう、学校との連携を図り、進めていただきたい。

I C Tの活用とA L Tの活用に力を入れているが、それぞれ次世代を担う子どもたちにとって早い段階から培っていくことで、目まぐるしく変化していく現状に適応できる価値あるものと捉えている。時代の変化に遅れることなく、教育委員会がリーダーシップを取り、進めていただきたい。あわせて、町民の方々にも広げることで、生涯学習との連携が図れるようになると思われる。

社会教育関係では、新型コロナウイルスの影響が大きく、各種事業の継続が厳しい状況となっている。高齢化も相まって、文化協会、スポーツ協会それぞれの加盟団体が減少していることから、現状維持のためにできることを検討していただきたい。

学校教育と社会教育の両輪が南伊豆町の教育大綱で目標としている「ふるさとを愛し、心豊かな人を育む」の土台となることから、人材不足等の課題はあるが、こどもから大人まで、学びを継続できる南伊豆を目指していただきたい。